

オンラインシンポジウム

市民と考える東大農場・演習林の活かし方

みんなで考えよう！
広大な農と樹木の研究拠点

東大生態調和農学機構※・市民・行政との協働事業の10年を振り返り、未来を語ります

※東大生態調和農学機構：東京大学 大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構の略称

参加費無料
先着80名様
9/1受付開始
(事前予約制)

[日時] ▶▶ 10月30日(土) 13:30~16:20

[会場] ▶▶ オンライン開催 (zoomを使用)

第1部 社会連携協議会の10年を振り返る

- 東大生態調和農学機構とは
- 社会連携協議会とは
- 社会連携協議会10年の活動
- 「東大農場」があるまち西東京
- 多摩六都科学館の社会連携協議会への関わり

第2部 パネルディスカッション 〈これからの10年で出来ることは？〉

パネリスト：

NPO法人グリーンコネクション東京 代表理事	佐藤留美
東大生態調和農学機構 助教	深野祐也
西東京市企画部 参与兼企画政策課長	栗田和也
多摩六都科学館 統括マネージャー	廣澤公太郎
社会連携協議会	若尾健太郎

お申込み

- 右のQRコードから、または、<https://forms.gle/2DQKeVLvqinzdMDJ8> より お申し込みください。
- ウェブ申込締切：10月25日。定員に達した場合は、申し込みを締め切ります。(先着順)
- 参加申込者には開催日前にオンラインシステムのURLをメールでお知らせします。
- オンラインで参加できない方は、多摩六都科学館にてモニターで視聴することができます。希望者は、10/18必着で、往復ハガキに、「イベント名、開催日、氏名、住所、電話番号」を記入して、多摩六都科学館気付 東大社会連携協議会 宛 (〒188-0014西東京市芝久保町5-10-64) にご郵送ください。 ※要入館料520円、定員8名(抽選)



お問い合わせ

MAIL renkei10th.aniv@gmail.com TEL 042-469-6100 (多摩六都科学館内東大イベント担当)

主催：東大生態調和農学機構 社会連携協議会

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構、西東京市 協力：多摩六都科学館

東大生態調和農学機構とは！？

東京大学 大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構（以下、東大生態調和農学機構）は、東京都西東京市に、いくつかの附属施設を統合し、2010年に設置された東京大学 大学院農学生命科学研究科の附属施設です（右図参照）。当機構がある田無キャンパスは、田無演習林を含めて30ヘクタール以上の面積に耕地、林地、温室、見本園などが配置され、東京大学大学院農学生命科学研究科・東京大学農学部の貴重な教育・研究の場となっています。



【シンポジウム開催趣旨】

東大生態調和農学機構では、東大生態調和農学機構と西東京市・市民による社会連携協議会を通じて、教育・研究の発展と社会貢献を図り、市民・行政との協働事業の推進に資することを目的に、2013年に東大生態調和農学機構社会連携協議会（以下、社会連携協議会）を立ち上げました。当シンポジウムでは社会連携協議会のこれまでの活動と東大生態調和農学機構の地域資源としての価値を広く市民に知っていただくと共に、南キャンパスでの持続可能な社会連携に向けて、市民参加による新たな活動を議論し、豊かなまちづくりに反映していくことを目的とし開催します。

【プログラム詳細】

- 開催挨拶 東大生態調和農学機構 機構長・教授 井澤毅
- 第1部 「社会連携協議会の10年を振り返る」 13:30~14:45
 - 東大生態調和農学機構とは（機構の使命と研究・社会連携活動、新キャンパス紹介等）
東大生態調和農学機構 准教授 矢守航
 - 社会連携協議会とは（協議会発足の背景や3者が連携するに至った経緯等）
社会連携協議会 宮崎啓子
 - 社会連携協議会10年の活動（サマースクール、アクティブスクール、農と食の体験塾 大豆編）
社会連携協議会 田中敏久 若尾健太郎
 - 「東大農場」があるまち西東京
西東京市企画部 参与兼企画政策課長 栗田和也
 - 多摩六都科学館の社会連携協議会への関わり
多摩六都科学館 統括マネジャー 廣澤公太郎
- 第2部 「パネルディスカッション<これからの10年で出来ることは？>」 15:00~16:20
 - パネリスト
NPO法人グリーンコネクション東京 代表理事 佐藤留美
東大生態調和農学機構 助教 深野祐也
西東京市企画部 参与兼企画政策課長 栗田和也
多摩六都科学館 統括マネジャー 廣澤公太郎
社会連携協議会 若尾健太郎
 - 司会：社会連携協議会 有賀達郎
- 閉会挨拶 西東京市長 池澤 隆史